株式会社吉本ハイテック（長崎県）

～ 大企業の公開特許を応用商品化 ～

1．開放特許を商品化へ

きっかけは、長崎県産業振興財団が実施した「開放特許説明会」であった。三菱重工業株式会社の開放特許、高速オシレートトーチの説明を受けた田崎社長は、社の経験、知識との融合により、高速隅肉溶接置「SOCY BOY」の誕生を直感的にひらめいたと言う。

早速、商品化すれば売れる製品になり、自社製品が無かった株式会社吉本ハイテックの柱になると考え、営業部において開発を開始した。

商品化にとりかかったとはいえ、今の「SOCY BOY」が誕生するためには、数々の改良が必要だった。三菱重工業株式会社の開放特許は、電磁石の活用によりウィービング溶接トーチのワイヤ送給機構のみを電磁的、機械的に揺動させるものであり、可動部を軽くでき、高速オシレーションを可能とする画期的発明であった。株式会社吉本ハイテックでは、商品化にむけて、高速オシレートトーチを小型走行台車に搭載するための更なる小型軽量化や冷却機構の検討、コスト削減等の課題を解決するべく開発に尽力した。その過程で、特許も取得している。

また、“ お客様のアドバイス ” を第一に考え、全国をデモしながらまわり続けた。“ アドバイス ” をすぐさま反映するための改良がされ、バージョンアップを度々繰り返した結果、現在の「SOCY BOY」は誕生した。

これは、日本全国に多数の売上げ実績を誇り、更に改良を加え、溶接ロボットの搭載が可能なタイプも開発し、特許を出願中である。

2．韓国へ販売進出

世界の造船大国である韓国から購入希望があったことをきっかけに、PCT出願を行っており、韓国においても特許出願中である。平成18年度は、韓国の造船所からの要望を受け、韓国（釜山）で展示会を開催、反響も上々のようだ。今後は、韓国に大々的に販売路線を築き上げていきたいと考えている。

3．“売れる商品”

同社は、特許によりロイヤリティ収入を得ることは考えていないという。とにかく売れる商品、お客様のニーズにあった商品を創るべく、想像力を働かせて新技術を生みだして行くことが基本であり、その核となるものが特許であるに過ぎない。

「特許をとっても販売ルートをもっていない。」と言って困っている企業も多いように、技術だけでは収益は上がらず、商品化、販売ルートの確保まで築き上げてこそ、企業の発展に繋がると考えている。株式会社吉本ハイテックは、販売ルートとして大手5、6社の代理店と契約している。

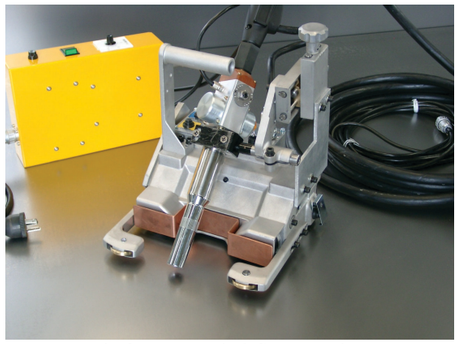
また、同社には、独自の研究開発部はないが、開発者との連携を密にとり製品開発を行っている。ユーザーの意見を直接聞くことが出来る営業部と技術の連携からユーザーに合った製品の改良、溶接の検証、新製品の開発等も実施している。

4．他業界へ進出

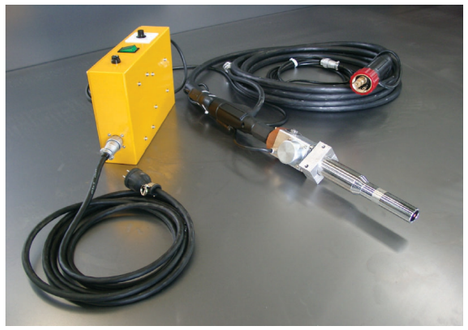
最近、自社の技術が、造船だけではなく、橋梁、建機、自動車部品等の溶接にも活用できることを発見し、造船目的で開発した製品をきっかけに、他業界にまで進出するに至った。

【保有権利に基づく製品例】

新型ロボット用トーチ
（型式SB－350CAM）



台車セット（型式SB―C）



トーチユニット（型式SB-U）

＜会社概要＞

名称及び代表者名	株式会社吉本ハイテック　　代表取締役社長　田崎 正志
本社所在地	長崎県長崎市神ノ島町1丁目361番地1
創業	1938（昭和13）年
資本金	3,000万円
従業員数	85名
主要製品	高速隅肉溶接装置「SOCY BOY」、モーター式カーブドトーチ
電話	095-865-1200
URL	http://www.yoshimoto-hightech.co.jp/